

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
 Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
 TEL 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033
 www.topmuseum.jp

即興 ホンマタカシ

Revolution 9: Homma Takashi

2023 年 10 月 6 日 (金)

– 2024 年 1 月 21 日 (日)

《New York》、《THE NARCISSISTIC CITY》より 2013 年
 ©Takashi Homma Courtesy of TARO NASU



ホンマタカシ（1962 年、東京都生まれ）は 1999 年に写真集『東京郊外』（光琳社出版）で第 24 回木村伊兵衛写真賞を受賞しました。行政やデベロッパーによる画一的な開発が進む東京郊外の風景と人々を一定の距離感で撮影し、叙情性を排した視点が高い評価を受けました。

2011 年から 2012 年にかけて、国内 3 ヶ所の美術館を巡回した大規模個展「ニュー・ドキュメンタリー」を開催。キャリア初期に手がけたイギリスのカルチャー誌『i-D』をはじめとするマガジン・ワークや、変わりゆく東京の風景とそこに暮らす一人の少女が成長する姿を写した〈Tokyo and my Daughter〉、写真家の中平卓馬をモチーフにした映像作品など、作家の写真・映像表現の広がりを概観する新旧作品が展示されました。

本展はホンマにとって日本の美術館で開かれる約 10 年ぶりの個展です。作家は建築物の一室をピンホールカメラに仕立て、世界各地の都市を撮影した、本展の中核をなす出品作品〈THE NARCISSISTIC CITY〉について、「都市によって都市を撮影する」と述べています。外に向かって開かれた小さな穴から差し込む光は、真っ暗な部屋の中に倒立した都市の風景を即興的に描き出します。

そして、この「即興」という言葉が本展では一つのキーワードとなります。作品や展覧会自体に偶然性を取り入れることに作家の現在の関心はあり、作品の中にも文字として現れる本展の英題

「Revolution 9」は、イギリスのロックバンド、ビートルズが様々な音源を元にコラージュのように制作した、同名曲へのオマージュとして捧げられています。

本展では、この 10 年あまりに制作された作品を中心に、写真・映像表現にラディカルな問いを投げかける作家の今に迫ります。

作家略歴

1962 年、東京都生まれ。1999 年、写真集『東京郊外』（光琳社出版）で第 24 回木村伊兵衛写真賞を受賞。2011-2012 年、個展「ニュー・ドキュメンタリー」（金沢 21 世紀美術館、東京オペラシティアートギャラリー、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館）を開催。著書に『ホンマタカシの換骨奪胎ーやってみてわかった！最新映像リテラシー入門ー』（新潮社、2018 年）など。作品集に『Tokyo and my Daughter』（Nieves、2006 年）、『THE NARCISSISTIC CITY』（MACK、2016 年）、『Looking Through: Le Corbusier Windows』（窓研究所／カナダ建築センター／Koenig Books、2019 年）など。また、『Thirty-Six Views of Mount Fuji』（MACK、2023 年）、『TOKYO OLYMPIA』（Nieves、2023 年）を刊行予定。

トピックス

国内の美術館では約 10 年ぶりとなる個展

2011-12 年に、金沢 21 世紀美術館（石川）、東京オペラシティアートギャラリー（東京）、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）を巡回した「ニュー・ドキュメンタリー」展以来、約 10 年ぶりの国内美術館での個展となる本展。この 10 年あまりに制作した近作や新作を展覧し、作家の現在地を示すとともに、その表現の可能性を探ります。

シリーズ〈THE NARCISSISTIC CITY〉を中心に

建築物の一室をピンホールカメラに仕立てた作品で構成

近年、ホンマはカメラの原型と言われるカメラ・オブスクラの原理に着目し、撮影を行ってきました。「暗い部屋」を意味するカメラ・オブスクラの原理は古くから知られ、人々は屋外の風景が小さな穴を通して光によって、暗い室内に倒立像となって映し出される様子に驚き、そのイメージを定着させることに試行錯誤を重ねてきました。

本展は、「都市によって都市を撮影する」と本人が述べる、建築物の一室をピンホールカメラに仕立て、世界各地の都市を撮影したシリーズ〈THE NARCISSISTIC CITY〉を中心に構成されます。他にも、葛飾北斎の《富嶽三十六景》に着想を得て、〈THE NARCISSISTIC CITY〉と同じ手法で富士山を写したシリーズ〈Thirty-Six Views of Mount Fuji〉など、計約 60 点を展示します。

本展が初公開となる新作を含む特集上映、

ワークショップ、トークなど関連イベントも充実

ホンマは写真作品だけではなく、映像作品の制作にも継続的に取り組んでいます。本展が初公開となる新作を含む、映像作品を 1 階ホールで特集上映します。また、会期中にはホンマが講師を務める計 6 回の連続ワークショップや、出品作家とゲストによるトークなども予定しています。

展覧会図録にホンマによる会場インスタレーション写真を掲載

11 月発行予定の展覧会図録では、作品図版に加え、作家自身が撮影した会場インスタレーション写真を多数掲載予定。また、ガブリエル・リッター氏（キュレーター／美術史家、カリフォルニア大学サンタバーバラ校美術学科准教授・大学美術館館長）、担当学芸員による論文を掲載します。

出品点数

61 点

関連イベント

ホンマタカシ映像作品特集上映

上映日 | 2023 年 10 月 14 日 (土)、10 月 15 日 (日)、11 月 18 日 (土)、11 月 19 日 (日)、
12 月 16 日 (土)、12 月 17 日 (日)、2024 年 1 月 6 日 (土)、1 月 7 日 (日)

上映作品 | 10 月 14 日 (土)、10 月 15 日 (日)、12 月 16 日 (土)

【A】「きわめてよいふうけい」2004 年 40 分

【B】「あなたは、あたしといて幸せですか？」2016 年 70 分

11 月 18 日 (土)、11 月 19 日 (日)

【C】「After 10 Years」2016 年 101 分

【D】「アヤクーチョの唱と秩父の山」2019 年 58 分

12 月 17 日 (日)

【E】「建築と時間と妹島和世」2020 年 60 分

1 月 6 日 (土)、1 月 7 日 (日)

【F】「最初にカケスがやってくる」2016 年 225 分

12 月 17 日 (日) *下記の対談イベント内での上映となります

【新作映像作品】「2019 年の磯崎新」2023 年 40 分

会場 | 東京都写真美術館 1 階ホール

参加費 | 無料

定員 | 190 名 (途中入場可、自由席)

出品作家とゲストによる対談

2023 年 12 月 17 日 (日) 15:00~16:30

出演 | ホンマタカシ (本展出品作家)、保坂健二郎 (滋賀県立美術館ディレクター)

*本イベント内でホンマタカシによる新作映像作品「2019 年の磯崎新」(2023 年 40 分) を上映します。

会場 | 東京都写真美術館 1 階ホール

参加費 | 無料

定員 | 190 名 (整理番号順入場、自由席) *当日 10 時より 1 階総合受付にて整理券を配布します。

そのほか、担当学芸員によりギャラリートークを予定しています。

展覧会図録

『即興 ホンマタカシ』

A5 並製 256 ページ (予定)、3960 円 (税込)、東京都写真美術館発行、11 月中旬発行予定

広報用図版



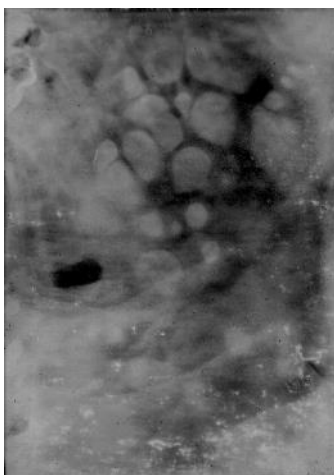
1



2



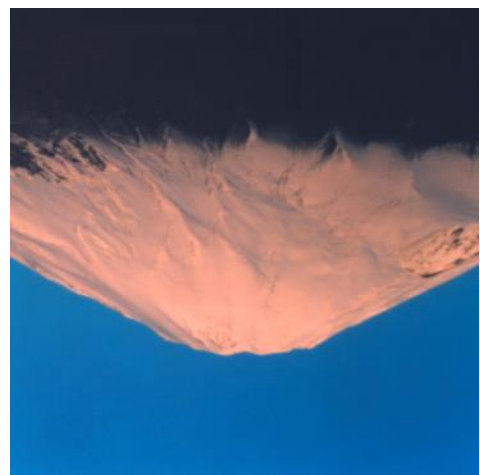
3



4



5



6

- [1] 《Revolution》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2013 年
- [2] 《New York》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2013 年
- [3] 《広島平和記念資料館》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2013 年
- [4] 《abstract 1》2014 年
- [5] 《No.9》、〈THE NARCISSISTIC CITY〉より 2015 年
- [6] 《mount FUJI 9/36》、〈Thirty-Six Views of Mount Fuji〉より 2016 年

*図版すべて©Takashi Homma Courtesy of TARO NASU

開催概要

展覧会名[和] 即興 ホンマタカシ

展覧会名[英] Revolution 9: Homma Takashi

主 催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

会 期 2023 年 10 月 6 日(金) ~2024 年 1 月 21 日(日)

会 場 東京都写真美術館 2F 展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電 話 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は 20:00 まで) 入館は閉館 30 分前まで

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)、年末年始(12/29-1/1)

観覧料 一般 700 円/大学・専門学校生 560 円/中高生・65 歳以上 350 円

※小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2 名まで)は無料。

※1 月 2 日(火)、3 日(水)は無料。開館記念日のため 1 月 21 日(日)は無料。

※オンラインで日時指定チケットを購入いただけます。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM 電話 03-3280-0034/FAX03-3280-0033

展覧会担当 伊藤貴弘/石田哲朗

広報担当 池田/平澤/鈴木 press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により内容を変更する場合があります。最新情報は当館ホームページをご確認ください。